

二 交 通

鉄 道

現在、村内を走る鉄道はJR土讃線のみで、三駅が設置されている。鉄道が開通する前、近隣への交通機関は人力車や岩目地―伊野間の定期乗合自動車だけであった。土讃線全通は昭和一〇年だが、その前に日下―須崎間が大正一三（一九二四）年に開通した。当時はまだ汽車を見たことも乗ったこともない村民がほとんどであり、開通の日、日下駅周辺に大勢が集まって初めての汽車を迎えた。この開通によって住民の交通手段は格段に便利となった。そして、日下駅―土佐加茂駅間、日下駅―伊野駅間は、ともに距離があるために、不便を訴える地元の人々の要望により、昭和三五（一九六〇）年に岡花駅、三九年に波川駅がともに無人駅で設置され、中間地域の住民は便利となった。昭和四五年には日下駅も無人駅となる。

国鉄民営化に伴い昭和六二（一九八七）年、地域別旅客鉄道会社としてJRグループが発足し、翌六三年一月、JR四国（四国旅客鉄道株式会社）の日下駅が装いも新たに落成した。正面にある駅名の看板は元村長・保木綱雄氏の筆によるもので、ホームの壁には、「高知線の歌」の日高村の特徴をうたった部分の詞がかけられている。

また、村では昭和時代から県に対して小村駅設置の陳情を繰り返し

表24 JR3駅の1日平均乗降者

(単位：人)

(年)	小村神社前駅	日下駅	岡花駅
昭和63	—	644	172
平成1	—	706	200
5	—	770	262
10	—	564	268
15	—	418	192
20	126	324	154
23	146	306	138

注：小村神社前駅は平成20年3月15日開業
資料：JR四国

行っていたが、実現には至らなかった経緯があるなか、平成二〇（二〇〇八）年三月、日下駅―波川駅間に待望の小村神社前駅が開業した。村にとっては三つ目の駅であり、岡花駅以来およそ半世紀ぶりの新駅誕生であった。これは、エコサイクルセンターの建設に伴う日高村振興策の事業として実現したものである。晴れやかに開業記念式典が開かれ、また、早朝五時五二分発の初乗り乗車証を求めてたくさんの人でにぎわった。

村民に募集した駅名は延べ六〇名から二一種類が寄せられ、上位は日高の地名を残したいからと日高駅、国宝がある神社にちなむ小村神社前駅であったが、後者に決定となった。この駅は足としての交通の便だけでなく、地域づくり、村づくりの役割も担う駅である。